



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3640号 2017.5.9 発行

### 日本財団 花屋併設カフェで障害者自立を支援 東京・原宿

毎日新聞 2017年5月8日  
開店早々、軽食やスムージーを味わう人たち。隣接する花屋の様子がガラス越しに見える＝東京都渋谷区千駄ヶ谷で2017年5月8日、米田堅持撮影

障害者を雇用を支援する一般社団法人のローランズプラス（東京都豊島区・福寿満希代表）は8日、東京・原宿近くに花屋を併設したカフェ「ローランズ social flower & smoothie shop」（東京都渋谷区千駄ヶ谷3）をオープンした。障害者たちが花の販売と軽食を提供する。



カフェは23席でスムージーやオープンサンドを提供し、花屋では花束や植物由来の商品を販売する。従業員25人のうち約20人が障害者で、花のアレンジメントや軽食などの提供や接客を行う。ローランズプラスは豊島区駒込に障害者が働く花屋も運営しているが、カフェを併設した店舗は初めてとなる。

カフェが入居するビルを所有する日本財団の笹川陽平会長は「このビルは社会に役立ててほしいと譲渡された。これまで障害者の得る賃金は低かったが、ここでは12万～14万円の賃金をめざしている。障害者に1人の社会人として仕事の間を提供し、この店の成功物語を作らせていただきたい」と述べた。

来賓として訪れた女優の東ちづるさんは「（障害者が働く）店が当たり前になるようになってほしい。施しではなく、つながるチャンスの社会への扉となる店だ思う」とあいさつし、母の日用の花をオーダーしていた。【米田堅持】

### 邪魔にしないで 気兼ねなくベビーカーを！

NHK ニュース 2017年5月8日

混雑した駅やデパートなどでエレベーターに乗りたくても、なかなか乗れない。われ先にと乗り込んでいく人たちを待って、ようやく乗っても、場所をとるので肩身の狭い思いも。ベビーカーに小さな子どもを乗せた、お母さんやお父さんたち。本当は優先されるはずなのに…。

ベビーカーは優先 呼びかけてるのに

駅のエレベーターの脇には、「お客様へのお願い」という文書が掲示され



ていることがあります。車いすの利用者、高齢の人、



妊娠中の女性、けがをしている人、ベビーカーを利用している人、子どもを連れた人たちが優先して利用できるよう、呼びかけるものです。

複数のエレベーターがあるデパートや自治体の庁舎などの中にも、「思いやりエレベーター」などと名付けて、障害者や高齢者、妊娠している人、幼い子どもを連れた人などが優先して利用できるエレベーターを設置するケースが増えています。

ところが、先日、都内のある駅のエレベーターで見かけたのは…。ベビーカーに子どもを乗せた女性が乗ろうとしたものの、多くのビジネスマンや観光客が列をつくり、なかなか乗ることができませんでした。2回エレベーターをやり過ごし、ようやく人が少なくなったところで乗ることができました。

### ベビーカー利用 ささまざまな声

インターネット上では、混雑した場所などでのベビーカーの利用について、さまざまな声があがっています。

「ベビーカーで出かけると、場所をとって邪魔に思われてないか常に不安だったりするので、微笑みかけてもらったり、エレベーターの開ボタンを押してもらえただけでも嬉しくて、ほっとします」

「子どもをベビーカーに乗せて出かけた時に、こっちはエレベーターでしかほかの階に移動できないのに、元気な人がエレベーターを占領して本当いらつく。きょうとかそれで何分もエレベーター待った」

「息子をベビーカーで連れてきたので、下に降りたくても、先ほどからエレベーターに2回乗れず途方にくれかけてる」。

ベビーカーを利用しているお母さんに、直接、街なかで話を聞いてみましたが、ネットの声と同じように、エレベーターになかなか乗れなかったという経験をした人が多くいました。



### 嫌な思い 半数以上が経験

ベビーシッターの仲介事業などを手がける企業、キッズラインが、ことし1月14日から16日にかけて、インターネット上で行った調査で、ベビーカーを利用する母親たちが、嫌な思いをしている実態が浮き彫りになりました。

340人が回答したアンケートで、ベビーカーを利用しているときに嫌な思いをしたことがあると回答した人は56.8%と半数を超えています。嫌な思いをした場所として最も多かったのは電車内で59.3%、次いで駅の構内が50%、エレベーターが46.4%となっています。

キッズラインによりますと、エレベーターで嫌な思いをしたと回答した人の中には「舌打ちをされた」とか「エレベーターに乗れず、4回乗るのを見送った」などと回答した人もいるということです。

### 負い目に感じる でも必要なんです

こんな調査結果もあります。

子育て情報を配信する情報サイトの運営会社、コズレが、2月14日から21日にかけて

て、子どもを持つ父親や母親を対象に、混雑時のベビーカーの使用に関するアンケートを実施し、400人から回答を得ました。

それによりますと、混雑した場所でのベビーカーの使用について問題と感じているか聞いたところ、「はい」と答えた人が86%に上りました。

また、ベビーカーを使用するとき気をつけていることを聞いたところ、「混雑したところへ行くときは気が引けます。場所をとってしまうのではないかと、人の流れを止めてしまうのではないかと、など考えてしまいます」「ベビーカーででかける場合、常に他者を優先し、いつもすみませんと頭を下げながら歩いています。もっと社会全体が、子どもを温かく見守る世の中であってほしいですが、私たち親も他者の思いやりの上にあぐらをかかない」といった声が聞かれたということです。

一方、混雑している場所でベビーカーを利用した経験があるかを聞いたところ、約7割が利用した経験があるとの回答がありました。

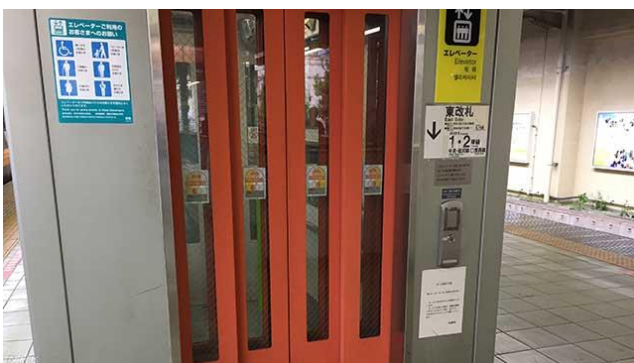
利用した場所については、スーパーやデパートが73%と最も多く、次いで交通機関が46%、3位はテーマパークで35%でした。こうした混雑した場所で、ベビーカーを使わざるをえないのは、「移動時間が長い」「荷物が多い」ためだと、多くの人が回答しています。

子どもが成長するにつれ、体重が増えて抱っこひもだと大変になり、出かける際には、紙おむつやおしりふき、タオル、哺乳瓶なども必要になってきます。子どもだけでなく、多くの荷物を抱えての移動は大変で、移動や買い物などでは、どんなに混雑していても、ベビーカーを使わざるをえない現状があるとみられます。

コズレは「周囲に配慮すべきという意識は持ちながらも、混雑した場所でベビーカーを使わざるをえなかった人が多いのではないかと話しています。

### 社会の宝物を守る

ベビーカーの利用をめぐるのは、電車などの一般の乗客から「若い人がベビーカーを通路いっぱい置いて、通れないことがあった」「足を踏まれた」などと、そのマナーを問う厳しい意見も聞かれます。



一方で、ベビーカーを利用する人の中には、抱っこひもでは体への負担が大きい人や、第二子がおなかにいる母親など、ベビーカーを使わないと移動できない人も多くいます。

ベビーカーを利用する人も、周囲の人にもそれぞれの事情がありますが、幼い子どもは「社会の宝物」です。ほんの少しだけでも、今より相手のことを気遣ってみる。子育てをしている人も、そうでない人も、お互いの事情を知り、行動していくことで、ベビーカーを使いやすい、ひいては子育てをしやすい社会になっていくのではないのでしょうか。

そうした姿は、物心のつかない「社会の宝物」の瞳にも、必ず映っていると思います。

ベビーカーの利用に関する調査結果の詳細は、下記のサイトで見るすることができます。

キッズライン [https://kidsline.me/contents/news\\_detail/128](https://kidsline.me/contents/news_detail/128)

コズレ <https://feature.cozre.jp/75601>

### 北九州市でアパート火災 6人死亡

NHK ニュース 2017年5月8日

7日夜、北九州市小倉北区のアパートから火が出て、全焼した焼け跡から6人の遺体が見つかりました。アパートの部屋には1日900円で日雇いの労働者などが入居していたということで、警察は、亡くなった人の身元の確認を急ぐとともに、出火当時の詳しい状

況などを調べています。

7日夜11時20分ごろ、北九州市小倉北区清水のアパート「中村荘」から火が出て木造2階建ての建物およそ300平方メートルと、隣接する住宅が全焼しました。

警察によりますと、アパートは16ある部屋のすべてに1人ずつ入居者がいて、焼け跡から男性6人の遺体が相次いで見つかりました。

また、煙を吸うなどして男性5人が病院に運ばれました。このほかの5人は、いずれも無事が確認されたということです

アパートの管理会社によりますと、アパートの部屋には日雇いの労働者や生活保護を受けている人などが1日900円で入居し、居住者の入れ替わりも激しかったということで、警察は、亡くなった人の身元の確認を急ぐとともに、出火当時の詳しい状況などを調べています。

一方、北九州市によりますと、このアパートは「簡易宿泊所」としての営業の許可は受けていませんが、入居している人の生活実態があれば許可は必要ないということで、市は今後、建物の詳しい使用状況を調べることにしています。

### 大家の娘「建設会社の従業員が居住」

近所に住むアパートの大家の40代の娘は、「ポンという音がしたので外を見ると煙が上がっていて、しばらくすると、すごい勢いで炎も出始めた。アパートは、不動産会社を通じて建設会社が借り上げていて、従業員が住んでいると聞いている」と話していました。

### アパートはどう使われていた？

全焼したアパート、中村荘の管理会社によりますと、建物は木造2階建てで、1階に7室、2階に9室の和室があり、広さは2階の1室以外は4畳半です。

1階には、2か所の玄関と共同の台所、それに浴室があり、トイレは1階と2階に2か所ずつあります。

アパートの賃貸に関わっている不動産会社の担当者によりますと、部屋は、建設現場で働く作業員や生活保護を受けている人などに、短期の賃貸物件として1日900円で貸していたということです。

管理会社によりますと、このアパートでは8年前、16室のうち13室に住宅用の火災警報器が設置されましたが、残りの3室は、当時は倉庫などとして使われていたため、火災警報器は設置していなかったということです。

北九州市や、ホームレスの人たちを支援するNPOによりますと、全焼したアパートは、家賃が安いことなどからホームレスの人などが入居しやすい物件の1つとして知られ、ホームレスだった人や生活保護の受給者などがこれまでも多く入居してきたということです。

### 住んでいた人は

全焼したアパートの2階の部屋に、ことし3月までおよそ1か月間住んでいたという64歳の男性は「部屋は4畳半の和室で、テレビや机、それに布団がもともとあって、1階には共用の電子レンジや冷蔵庫が置かれていた。廊下にいくつか消火器も設置されていた」と話していました。

### 現場近くの人「激しい勢いで炎上」

現場近くの飲食店の従業員は、「サイレンの音がどんどん増えていったので店の前に出ると、周りに密集する建物よりさらに高い炎が激しい勢いで立ち上がり、煙もすごかった。複数の消防車が消火活動に当たり、周りには近所の多くの人が集まって心配そうに見ていた」と話していました。

## NY、ホームレスを1泊6万円ホテルに収容 施設不足で措置、会計監査官は問題視

共同通信 2017年5月8日

路上生活者（ホームレス）の保護施設不足に悩む米ニューヨーク市がシェルター代わりに1泊549ドル（約6万円）のホテルにホームレスを臨時収容させていたことが分かり、



市の会計監査官は巨額支出を問題視する報告書をこのほど公表した。



同市では3月末現在で約6万人と過去最多のホームレスが施設に保護され、うち民間ホテルに約7800人が滞在。一方、中心部マンハッタンではホテル不足も深刻で、観光客も料金の高騰に悩まされている。

報告書によると、気温が0度近くに下がった昨年12月30日には合計で約65万ドル（約7300万円）をホームレスの1泊分のホテル代として支出、過去最高額を記録した。2月末までの4カ月間の平均は1日当たり53万ドル（約6000万円）だった。

米ニューヨークの公園付近で「ホームレス」と書かれたボール紙を掲げる女性（下左）＝共同

### 障害児預かり4000万円 堺市が事業者告訴へ

毎日新聞 2017年5月9日

堺市は8日、障害のある子どもを放課後に預かっていた事業者「JUPITER」（堺市堺区香ヶ丘町1丁）が、常勤管理者を置かず不正に給付費を請求したとして、事業者指定を取り消したと発表した。3年4カ月にわたり計4099万円を不正に受け取ったとして、市は詐欺容疑で男性社長を刑事告訴する方針。

市によると、同社は2013年8月から障害のある子どもを放課後や長期休暇中に預かる事業を始め、専任の児童発達支援管理責任者が常勤していないのに通所給付費を減額しないなど、同月～16年12月、計41回にわたり不正請求したという。

多い日で小中高生12人が利用。利用者の保護者から職員の対応について市に相談があり、調査の結果、不正が判明。20代の男性職員が利用者の腹部を複数回つねる虐待も発覚した。男性社長は調査に対し、「15年6月に違反を認識したが、市に相談すると指定取り消しになると思った」と話したという。市は違反加算金を含め5738万円の返還を求めた。【山下貴史】

### 独自の製図法で障害者の服作り

デザイナー鶴丸礼子さん

朝日新聞 2017年5月9日

服飾デザイナーの鶴丸礼子さん＝大分市府内町1丁目



約30年間で作った身体障害者向けの服は1千着以上。体の46カ所を測る独自の製図法で、どんな体形にもなじむ着心地の良さを追求してきた。大分市のアトリエには、既製服が合わずに悩む人たちが全国から訪れる。「まるで着ていないみたいに体がラク」。目を輝かせる姿を見るのが励みだ。

子どものころから服が大好きだった。服飾の専門学校を卒業後、仏有名ブランドを経て独立。障害者の服作りは、30歳過ぎ、骨形成不全症で体全体にゆがみがある知人から頼まれたことがきっかけだった。手間も時間もかかる。でも「服職人なら何でも作れなければ」。のめり込んだ。

曲がった背骨が服でつっぱる、息が苦しい、着るときに痛みがある――。悩みを聞き取り、製図法を10年ほどかけて完成させた。2011年末に開いたアトリエの名は「服は着る薬」。手がけた服を身につけた人たちが笑顔を向ける写真集をこのほど出版。型紙や制作過程の写真も惜しみなく紹介した。

### ダウン症 「自立した人生」伝える母子写真展 表参道駅で

毎日新聞 2017年5月8日

ダウン症のある子と母親を被写体にした写真展が8日、東京都港区の東京メトロ表参道駅で始まった。14日の「母の日」にあわせた企画で、写真家の宮本直孝さん（56）と、

親たちでつくるNPO法人「アクセプションズ」が企画した。21組の母子のモノクロ作品が改札口近くの地下通路の壁に



展示され、駅利用者ら行き交う人に「母の強さ」を伝えている。

ダウン症の子とその母を写した写真が並ぶ地下鉄駅の通路＝東京メトロ表参道駅で2017年5月8日午前10時37分、宮間俊樹撮影

アクセプションズの会員ら30～70代の母親と1歳～30代の子が被写体となった。ダウン症の書家、金沢翔子さん（31）も母親と共に参加している。母子の写真を隣り合わせにして展示しているが、撮影は「それぞれが自立した

た人生を生きている」という意味を込め、別々に行った。

アクセプションズの古市理代理事長（47）と長男の裕起さん（13）は4月初旬に撮影に臨んだ。「作った表情ではなく、心の中をのぞき込まれるような撮影だった。息子を授かってから、前へ前へと進んできたけれど、自分自身を省みる機会になった」と古市さんは語る。

ダウン症は先天性の症候群で、通常は2本1組になっている染色体の21番目が3本あるために起こる。800～1000人に1人の割合で出生すると言われ、心疾患や知的障害などを伴うことが多い。写真展は14日まで。【五味香織】

## 指定管理から直営復活 視察相次ぐ 小郡市立図書館試行錯誤の30年 読書活動推進策

にも力【福岡県】 西日本新聞 2017年5月9日  
11月で30周年を迎える小郡市立図書館。試行錯誤を重ねながら、あるべき公共図書館像を模索している新木



館長（右）と一緒に、絵本に出てきた食材を使った「ものがたりレシピ」の給食を楽しむ子どもたち



今年11月、開館30周年を迎える小郡市立図書館（新木秀典館長）に視察が相次いでいる。いったんは指定管理者制度を導入したが、3年で市の直営に戻した珍しい公共図書館だからだ。近年では、学校給食との連携など、独自の子どもの読書活動推進策も注目されている。さまざまな試行錯誤を重ねながら、あるべき公共図書館像を目指す姿を追った。

「絵本に出てきたタケノコだ!」。4月下旬、市内の市立全8小学校と5中学校の給食に「ものがたりレシピ」が登場した。メニューは、給食前の授業で読み聞かせがあった絵本「ふしぎなたけのこ」にちなんだ、たけのご飯。東野小1年の秋山結愛さん（6）は「絵本のタケノコがおいしそうで、ちょうど食べたくっていた。おかわりしたい」と声を弾ませた。

ものがたりレシピは、「子どもたちに読書を身近に感じてほしい」と2011年度に始まった年1回のイベント。市立図書館が中心となって教務課や学校給食課と協力し、約3カ

月かけて本の選定やメニューづくりなどを進めてきた。

企画を担当した同図書館司書の田実亜依子さん（35）は「他の課との連携なしにはできない取り組みで、直営だからやりとりがスムーズにできた」と、「直営」である利点を語る。

市立図書館は1987年11月に市の直営で開館した。2006年4月、行財政改革の一環として指定管理者制度を導入し市が出資する公社に運営を委ねたが、3年後、「迅速な意思決定ができない」などとして再び市の直営に戻された。

指定管理者時代の08年に館長となり、直営に戻った後も16年3月まで館長を務めた永利和則・福岡女子短大特任教授は「民間と直営両方の経験から、直営だからこそできる権限の大きさを実感した」と語る。

例えば直営の場合、館長は市の課長として他の課と対等な立場で協議できるが、指定管理者の場合は担当課に提言し、市が動くのを待つしかないという。永利さんは「市の政策立案に直接関われる権限の差は大きい」と話す。

小郡市立図書館には今、視察が相次ぐ。佐賀県武雄市が市立図書館の指定管理者にレンタルソフト店最大手「TSUTAYA」（当時）の運営会社を決定した12年度には年40件に上り、その後も北海道や四国など各地から10～20件程度の視察が続いているという。

武雄市を第1号に全国に広がった「ツタヤ図書館」はカフェ併設などで人気を集める一方で、不適切な選書などが指摘された。「あらためて文化行政の中心としての公共図書館の運営に、多くの自治体に関心を持っている証拠。小郡の試行錯誤を参考にしたいということではないか」と関係者は推測する。

人口約6万人だが、書店が2店しかない小郡市。活字難民を生みかねない現状を打破しようと、先頭に立ってきたのが図書館だった。

開館と同年に始まった移動図書館は、当初の12カ所から病院や公園など24カ所に拡大。03年度には障害などで来館が困難な人への宅配サービスを始めた。小中学校や高校、専門学校の蔵書を市立図書館のコンピューターで一元管理することで1枚の利用カードがあればどこでも本を借りられるシステムは全国的にも珍しいという。

10カ月児の健診の際に保護者に絵本を渡して読み聞かせのアドバイスをする「ブックスタート」では、大学と連携してその後の追跡調査を行い、母子支援の研究につなげている。

一方で、直営に戻して以降も経費を抑えるため、市職員は館長ら3人のみで、司書13人は嘱託職員が担っている。「若い人の利用が少ないので、もっと専門書を充実させて」（利用者の男性）など、図書館への注文が尽きることはない。

図書館でも、貧困家庭を中心にした学習支援を模索している。「市民のニーズを丹念に拾って、本の貸し出しにとどまらない役割を担っていきたい」と、新たな意欲を見せている。

## 所在不明乳児 大阪府警虐待対策室が保護 発足後初 毎日新聞 2017年5月9日

大阪府警児童虐待対策室は、府内で昨年未から所在が分からなくなっていた生後8カ月の男児を両親と共に名古屋市内で発見、保護したと8日、発表した。児童虐待の専門部署として4月に全国の警察で初めて発足して以来、同室が行方不明の子どもを保護した初のケース。男児の健康状態は良好という。

同室によると、男児は生後4カ月だった昨年12月、両親と共に大阪府茨木市内の祖母宅を出て以来、行方が分からなくなった。4カ月健診も受けておらず、連絡も取れないため市が児童相談所（児相）に通告、児相が府警に連絡した。

府警の捜査で父親（31）の出身地の愛知県内のビジネスホテルなどを一家で転々としていることが判明。同県警も窃盗事件の容疑者として父親の行方を追っており、連携して今月6日に名古屋市内で男児を保護した。男児は一時保護施設に預けられ、父親は窃盗容



疑などで逮捕された。

同室は児相などとの情報共有を強化し、府警が認知していない虐待事件の把握や所在不明の子どもの安否確認を目的に設置された。荒武泰子室長は「保護しなければネグレクト（育児放棄）に陥る恐れもあった。行政との連携もスムーズだった」と話している。【山田毅】

**社説：精神科の隔離拘束 増加の実態把握を急げ** 岩手日報 2017年5月7日

「鉄の扉、ベッド、むき出しの便器。『花』『夏の思い出』『赤とんぼ』...知ってる歌をひたすら歌って耐えました。保護室の孤独は、経験者にしか分からない」

「ベルトで両手両足と腰を拘束され、オムツに尿カテーテル。屈辱でした。いくらもがいても身動きできない。諦めの境地になりました」

精神科病院での身体拘束や、施錠された保護室への隔離が、どんなにつらいことか。本県の患者の体験談からは、心の病に、隔離や拘束による心の痛みが重なる過酷な状況が浮かび上がる。

その隔離拘束が全国的に増加している。厚生労働省の集計によると、身体拘束は2014年度までの10年間で倍増し、1万人超。隔離も調査が始まった1998年度以来、初めて1万人を突破した。

精神保健福祉法では、患者が自らを傷つける恐れがあるなどの場合、指定医の判断で隔離や拘束が認められている。厚労省は、人権に配慮しつつ、症状に応じて最も制限の少ない方法で実施する必要があると病院に求めている。

にもかかわらず、なぜ増加しているのか。詳しい理由は不明だ。精神科救急の整備が進み「症状が激しい患者の入院が増え、やむを得ない」とする見方の一方、人権意識の希薄さを指摘する声もある。簡単に使える拘束器具の普及も増加の一因とされる。

患者の声の切実さに比べ、厚労省の動きは鈍い。患者の疾患など詳しい実態把握、増加要因の分析を急ぎ、安易な隔離拘束が行われないよう対策を講じるべきだ。

精神科病院には近年、認知症患者の入院が増加傾向にある。2014年時点で、入院患者約28万9千人の約6割は統合失調症だが、認知症も約5万3千人いる。

政府が策定した認知症施策推進総合戦略は「認知症の人の意思が尊重され、住み慣れた地域で自分らしく暮らせる社会の実現」を打ち出すとともに、精神科病院の役割も強調している。

その精神科病院で、理由がよく分からないまま隔離拘束が増えている現状では、本人も家族も安心できず、戦略の実効性に疑問符が付く。

京都市で先月末、世界各地から約2500人が参加し「国際アルツハイマー病協会国際会議」が開かれた。認知症の人が自ら会議の企画運営に参画。「支える側」の視点に偏りがちだった施策を、本人の意思重視へ転換する一歩として注目される。

精神医療分野でも、本人の意思を尊重したケアの実現、隔離拘束の縮減へ一部の関係者が奮闘しているものの、広がりや欠く。それぞれの現場で患者の声に耳を傾け、心の痛みを思いをはせてほしい。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行